

視点1 3つの出会いを大切にした授業づくり

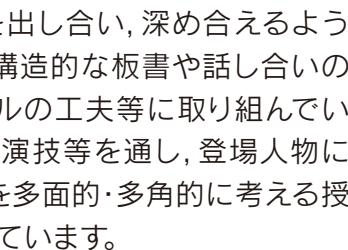
【「教材との出会い」の工夫】

本時で取り扱う道徳的価値等について動機付けを図るために、イラストや紙芝居を使つての教材提示や、日常生活を振り返らせる発問、体験したことや経験したことをスライドで見せる等、導入を工夫しています。



【「友達の多様な考えとの出会い」の工夫】

互いの考えを出し合い、深め合えるようにするために、構造的な板書や話し合いの形態、思考ツールの工夫等に取り組んでいます。また、役割演技等を通し、登場人物に共感させ、物事を多面的・多角的に考える授業展開も工夫しています。



【「新たな自分との出会い」の工夫】

友達の多様な考えに触れることにより気付いたり深まったりした考えや、今までになかった自分の考えを書くことで、これからの自己の生き方への課題や希望がもてるような場を設定しました。

児童の振り返りより

「(外国の人と仲よくなるためには) 少しずつ寄り添ったり、壁をなくそうとしたりして、お互いのことを知ることが大切」という友達の考えを聞いて、自分では考えつかなかったけれど、大事な考えだと思った。今度、外国の人と触れ合う機会があったら、まず自分のことを話そうと思う。

～「ペルーは泣いている」(国際理解・国際親善)5年～

視点2 授業に対する評価と児童に対する評価

【授業に対する評価と児童に対する評価】

授業を改善していく指標とするために「授業における基本事項振り返りシート」を作成し、「学習活動が児童の見方や考え方をより多面的・多角的なものへと発展させるのに効果的であったか」「道徳的価値を自分のこととして捉えることができたか」という観点で、授業者が振り返ることができるようにしています。

また、児童が意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価方法を工夫し積み重ねていくことで、自らの成長を実感できるようにしています。

出会いの工夫	
①教材(道徳的価値)との出会い…必然性を持つせる。	
・子どもたちの実感をアンケート等で明らかにしたことは、「規則の尊重」について学習していくという意識をもたせるのに効果的だった。	✓
②友達の多様な考えとの出会い	
・「わたし」に共感させながら進めることは、自分のこととして考えさせることに効果的だった。	3
・「わたし」の気持ちや考えは、きまりや規則のとらえ方やできなかったときの気持ちを多面的・多角的に伝えさせることに効果的だった。	3
③新たな自分との出会い	
・今までの行動を振り返り、これからなりたて自分の姿を書いたりすることは、自己の生き方についての考えを深めるのに効果的だった。	2

振り返りシートの一部

視点3 学びを支える基盤づくり

【学習過程の工夫・学習規律などの基盤づくり】

9年間の学びをつなぐために、併設する玉陵中学校と連携して学習過程の工夫と学習の基盤づくりに取り組んでいます。

右に示している「ぎ・よく・りよ・う」学習過程や各教室に掲示している「授業のこころえ」(学習規律の共通目標)を共通実践事項として取り組んでいます。

特に、「ぎ・よく・りよ・う」学習過程については、各教科等の特質を考慮しながら、全ての教科等で実践につないでいます。

学習過程		
導 入	ぎ 今日のめあて	●つかむ／見通す ・課題把握 ・解決の見通し
	よく よく考えよう	●考える ・自力解決
展 開	りよ 量と質を高めよう	●ふかめる ・協働解決
	う うん、なるほど	●まとめる ・めあてに対するまとめ ●振り返る ・理解や感想

【生活や体験活動との関わりの工夫】

生活や体験活動と関連付けた道徳科の授業を実践するために、別葉を活用しています。各学年の別葉を職員室前の廊下に掲示し、実施する教材



と道徳教育に関わる教科の学習や体験活動の時期を確認できるようにし、日頃からそれらの関連を意識して取り組めるようにしています。



成果と今後の方向性

【成果】

- 3つの出会いを大切にした道徳科の授業づくりに取り組んできたことで、児童の実態から授業をつくることの重要性にあらためて気付くことができ、日頃からしっかりと児童の様子を見つめるようになった。
- 導入・展開・整理の各過程において、様々な工夫をすることが、物事を多面的・多角的に捉えさせるとともに、今までの自分を見つめたり、将来への展望をもったりすることにつながることを実感できた。

【今後の方向性】

- 道徳的価値を自分のこととして捉えることができるように、児童の発達段階に即した指導方法の工夫や、全職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画の見直しが必要である。
- 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす評価の研究も深めていくことが必要である。

平成30・31年度 文部科学省指定
道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
熊本県教育委員会 玉名市教育委員会指定
道徳教育研究推進校事業

研究主題

9年間の学びをつなぐ教育の創造

～自己の生き方についての考えを深める
道徳科の授業の工夫～



現代社会では中1ギャップやいじめ問題、情報通信技術の発展に伴う教育課題への対応をはじめ、豊かな心の育成、規範意識の醸成など、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが強く求められています。

このような課題を解決するために、本校では、「9年間の学びをつなぐ教育の創造」を研究主題とし、自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業の工夫に取り組むこととしました。

本研究の1年目に当たり、道徳教育の要である道徳科において、「教材」「友達の多様な考え」「新たな自分」の3つとの出会いを大切にした学習指導・方法の工夫に取り組みました。

玉名市立玉陵小学校

授業の実践例

1年生 主 題:うそばかりついていると(正直, 誠実) 教材名:ひつじかいのこども(いきるちから)

うそばかりついている人の言うことは、信じられなくなることを理解することで、うそをつかないで正直に行動しようとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。

導入では紙芝居を用いて、登場人物に共感させました。また、動作化を通して、2回も3回もうそをつかれたときの気持ちや、正直に生きていくことの大切さについて考えさせました。



児童の振り返りから

- (うそばかりついていると)
- 誰からも信用されなくなると思います。
- いやなことが自分にはねかえってくると思います。
- みんなに助けってもらえなくなると思います。



保護者の声

- 子供自身もうそをつく信用されなくなるので、うそをつくのはよくないことだと話してくれました。本当にそのとおりだと思いました。
- みんなが気持ちよく生活できるように、お互い正直に生きることを心がけていこうと話しました。

3年生 主 題:命が生まれ育つこと(生命の尊さ) 教材名:お父さんからの手紙(生きる力)

多くの人の支えによって守られている生命。お父さんからの手紙を読んで、そのことに気付いた健一の気持ちを考えていくことを通して、自他の生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。

健一の気持ちを考える前に、大切に育てられてきたことをふまえて、お父さんとお母さんの気持ちを考えさせました。その際、子供が救急搬送されたという実話を教師が語ることによって、より身近なこととしてとらえさせることができました。



児童の振り返りから

- 病気にかかったり、危ないことにあったりしないように、命を守っていきたいと思いました。
- きまりやルール、マナーを守っていくことも、命を大切にしていくことにつながると思いました。



保護者の声

- 健康に生きられるということの大切さ、あなたの命を家族も大切に思っているということをもっと伝えていこうと思います。
- 生まれてきた時の状況や私たちの気持ちについて話しました。お互いのことを見つめ直すよい機会になりました。

5年生 主 題:たいせつなきまり(規則の尊重) 教材名:通学路(生きる力)

社会生活を送る上で必要なきまりの意義について考えることを通して、進んできまりを守ろうとする態度を養うことをねらいとして授業を行いました。

アンケートの結果を活用し、きまりについて考えていくことへの動機付けを行いました。あわせて、きまりがあるのは分かっているけれど守れなかった「わたし」に共感しながら、きまりの意義について考えさせました。「わたし」と同じような気持ちになった経験について振り返らせ、これからの生き方について考えさせることができました。



児童の振り返りから

- 帰ってすぐに宿題をする約束してあげられ、少しだけならいいかと先に遊ぶことができました。でも、宿題は自分のためになることだから、先にしようと思いました。
- 「少しだけならいい」と思うことをがまんして、きまりを守っていきたいと思いました。

保護者の声

- 授業の感想を聞いてみたら、「自分の命を守るためにもきまりは必ず守らないといけないと思った」との返答がありました。きまりを守っていこうと約束をしました。
- 何のためにきまりがあるのかを考え、理解できるとただのきまりではなくなると思えます。そのことがよく分かっていました。

2年生 主 題:向上心(希望と勇気, 努力と強い意志) 教材名:朝よみ夕よみ(くまとの心)

小さい頃から目標をもち、努力を重ねた少年時代の小畑惟清に共感させることを通して、何事にも粘り強く取り組み、努力しようとする気持ちを育てることをねらいとして授業を行いました。

表情カードや挿絵、吹き出しを用いることで、自分のこととして考えられるようにしました。また、友だちの多様な考えに触れることができるように、ペアトークやグループトークで考えを交流させました。



児童の振り返りから

- 私もさが上がりができなかったとき、何回も練習したら、できるようになりました。初めてできたときは、うれしくて楽しくなりました。



保護者の声

- 一つ一つゆっくりと努力しながら成長してくれていることにホッとします。
- 自分ならどうするのかを尋ねたら、毎日取り組んでいる自主学習を、ずっと続けたいと言っていました。毎日の積み重ねが大事だと話しました。



4年生 主 題:分けへだてなく(公正, 公平, 社会正義) 教材名:いじりといじめ(生きる力)

いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながっていることに気付き、誰に対しても分け隔てをせず相手を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。

ホワイトボードを使い、げんきくんの「だって、おもしろかったんだもん。」という発言について、立場を明らかにして話し合わせました。いじりもいじめも相手をいやな思いにさせるという共通点があり、これからは、相手の気持ちを考えて行動していくこと、相手によって態度を変えないことなど、様々な考えを出し合わせました。



児童の振り返りから

- 友達となかよくするために人によって態度を変えないようにしたいです。
- 相手の気持ちになって行動し、いじりやいじめにつながるような種をまかないようにしたいです。



保護者の声

- 「いじり」と「いじめ」は根っこは同じだと思います。いじられている人が気にしていないように見えても、心の中までは見えないから。
- 冗談のつもりでも、受けた側のとらえ方は違うかもしれません。相手の気持ちが分かる子になってほしいです。

6年生 主 題:理解し合う大切さ(相互理解, 寛容) 教材名:「ダン」をどうする?(生きる力)

子供たちと話し合う自治会役員の気持ちを通して、自分の考えを相手に伝えるときにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる考えや立場を尊重する態度を養うことをねらいとして授業を行いました。

子供たちが犬を飼うことだけでなく、団地に住む人のことも考えていることや、自治会役員が広い心で子供たちの考えを聞き入れていることに気付かせるために、役割演技を取り入れました。今までのことを振り返り、自分の考えをはっきりと伝えるときにも、相手の考えを聞くことを大切にしていこうという思いを共有させました。



児童の振り返りから

- 以前、言い争いになったとき、熱くなって自分の意見ばかり言っていました。だから、これからは「相手はなぜこんなことを言うのか」と、相手の気持ちを考えることが大切だと思いました。



保護者の声

- 伝えるときの態度や言い方で相手の受け入れ方も変わってくるものです。思いが違っても、相手の意見を受け止められる心の余裕をもちたいと思いました。
- 相手の立場を考えたり、異なる考え方も尊重したり、お互いが納得し、気持ちよく生活できるよう話し合うことも大切だと思いました。